

CPCU日本支部 チャプターミーティング

韓国の損保市場テーマに講演

CPCU(米国認定損害保険士)日本支部は1月21日、東京都千代田区の現代海上保険日本支社でチャプターミーティングを開催した。会員同士の知識共有とCPCU会員としてのスキルアップを目的に実施しているもので、今回は、「韓国の損害保険市場」をテーマに同社グローバルサービスチーム長朴垣奎(パクウォンギョ)氏が韓国の損害保険市場の構造と変化に加え、その変化が日本市場やグローバルパートナーに与える影響について解説した。当日は、CPCU会員など約35人が参加した。

朴氏はまず、韓国の損保市場について、韓国の損保市場は成熟市場であるものの、単なる規制変更や透率が高いことに加え、一時的な環境変化ではなく、商品ラインアップも充実していることから、主要な保険会社は比較的安定したポジションを確立している成熟市場であるものの、単なる規制変更や透率が高いことに加え、一時的な環境変化ではなく、商品ラインアップも充実していることから、主要な保険会社は比較的安定したポジションを確立している成熟市場であるもの

換を迎えている要因として、①自動車保険や実損てん補型医療保険を中心とした従来型の個人向け保険分野において収益性の確保が難しくなっていること②23年にIFRS



朴氏

商品だけでは持続的成長が困難になったことへの三つを挙げた。

①については、事故頻度の増加や修理費、医療費の上昇による損害率の上昇

社には継続的な資本負担と収益圧力をもたらしているとした。

②については、単なる会計基準や支払余力規制ではなく、経営判断その

③については、保険会社は、資本規律の強化と同時に、事業構造やポートフォリオそのものの見直しを迫られており、再保険は単なるリスク移転手段ではなく、資本効率を高める戦略的ツールとなり、グローバルな再保険構造や長期的なパート

の、こうした商品は社会保険に近い性格を帯び、市場規模を維持しながらも、保険会社は拡大を重視することから、契約単位での収益性や長期的な利益の質、経済価値ベースでのリスクと資本効率を中心的な評価指標に変化した。そのため、資本管理が経営の軸となり、規模の大きさだけでなく、高評価される時代へと移行しているとした。

③については、保険会社は、資本規律の強化と同時に、事業構造やポートフォリオそのものの見直しを迫られており、再保険は単なるリスク移転手段ではなく、資本効率を高める戦略的ツールとなり、グローバルな再保険構造や長期的なパート

ナーシップの重要性が増している」と説明した。このような変化の中で、韓国の損保会社は「ボリューム」から「構造」へと競争の軸を移しており、小規模でも安定した利益と高い資本効率を持つ事業が戦略的に重視されるとした。また、保険の枠を超えた「Beyond Insurance」の動きも加速しており、ヘルスケア分野でのリスクコントロール(予防や軽減など)、データ活用による高度なアンダーライティング、さらには東南アジアを軸とした海外展開にも注力している」と述べた。

同氏は、韓国の損保市場で進んでいるこうした変化は、韓国特有の現象ではなく、成熟した保険市場が共通して直面する将来像だと強調した上で、「韓国市場は日本市場にとって『少し早く到達した未来』と捉えることができる。今後の競争力の源泉は、誰が多く販売するかではなく、誰がより優れたリスク構造と資本構造を設計できるかにある。この視点こそが、日本の保険会社およびグローバルパートナーが将来戦略を考える上で重要なヒントになる」と締めくくった。

競争力は「量」から「質」へ

17およびK-ICSが本格的に適用されたこと③保険会社が従来型の保険

高止まりによって、保険料引き上げや商品改定に強い規制がかけられたも

もの軸を変える制度であるため、収入保険料の増加やマーケティング

増加やマーケティング

増加やマーケティング

増加やマーケティング